

誕生日とクリスマス

園長 平 川 新

幼稚園では毎月、その月に誕生日を迎える子どもたちのために誕生会をおこなっています。誕生日を祝ってもらい、祝ってあげるこうした会は、とてもいいですね。いまの時代は幼稚園でも家庭でも誕生日を祝うことが普通のことですが、私が子どものころは、そのような習慣はあまり普及していませんでした。歳はみんな一緒に、お正月にとっていたからです。生まれた時が1歳、そして元旦を迎えた時に1歳を加えるのが^{かぞえどし}数え歳です。12月生まれの場合、1ヶ月もたたないうちに2歳になってしまいます。

正月のことを年取りと言いますが、年が改まって新年を迎えるという意味と、歳（年）をとるといふ、二つの意味があることとなります。伝統的な通過儀礼では、数え歳がまだ生きています。最近では満年齢でということもあるようですが、子供の成長をお祝いする七五三や、喜寿・米寿などの歳祝いがそれです。厄年も数え歳ですね。

生まれた時を0歳とし、誕生日を迎えた時に1歳を加えていくのが満年齢です。キリスト教的年齢観だとも言われますが、ヨーロッパを中心に国際的には満年齢が一般的でしたので、日本でも1949年（昭和24）に、公文書では数え歳ではなく満年齢を使用する法律が定められました。以後、公文書以外でも数え歳の利用が激減し、満年齢が普及していったのです。満年齢を使うのが当たり前になったのは戦後からだといってよいでしょう。年輩の方が時おり、数えで何歳とおっしゃるのは、そうした歴史の名残りだといえるかもしれません。

イエス様の誕生日であるクリスマスは、クリスチャンにとっては聖日ですが、ノンクリスチャンにとっても楽しい行事日になっています。幼稚園でも間もなく、クリスマス祝会（12月10日と11日の午前10時から幼稚園のプレイルームにて）と、クリスマス礼拝（12月18日午前10時30分から礼拝堂にて）がおこなわれます。保護者のみなさまも、どうぞご参加ください。